

## Elementaryコースプログラム

時間	区分	内容	教授方法	担当
9:00 ～ 9:30	受付	名札交付・受講費受領		
	受講準備	EFAK交付 IFAK内容品確認 PALS装着教育 防弾ベスト調整	EFAK:Elementary First Aid Kit 必須救急品 IFAK:Individual First Aid Kit 個人携行救急品 PALS:Pouch Attachment Ladder System 装備品の取り付けシステム	
	講師紹介 受講者自己紹介	相互理解		
9:30 ～ 10:00	日常外傷治療システムと 有事医療システムの違い	「適者生存の医療」への切り替え 1 自助:個人がすべきこと 2 共助:相互にすべきこと 3 公助:体制・態勢が支えるべきこと 4 有事医療の鉄則「PPS」について 5 ゴールデンアワー ゴールデンビリオド 4Rの違いと解説 6 ABCDEFアプローチと Call A CAB' N Go HOT SAFE-MARChEの違いと解説	有事医療の最重要段階について “SABACA”サバカ Self-Aid 負傷者自身による救護 Buddy-Aid 負傷者相互による救護 Civilian-Aid 市民への救急処置の提供  有事医療の最も重要な考え方について “PPS” Protect 防護・外傷の予防 Project 救護・治療能力の提供 Sustain 生命の維持・任務の継続	講義
10:00 ～ 10:30	戦闘外傷概論	戦闘外傷の受傷機転とその実際及び治療法 1 銃創 2 爆傷 3 熱傷 4 防弾ベスト外傷 5 ヘルメットと爆傷、頭部外傷の関係	低速弾銃創と高速弾銃創の違い 防弾レベル NIJ I～IV 砲弾、爆弾、IEDの違いと外傷の違い 焼夷剤、着火剤の消火法と処置法	講義
10:30 ～ 10:45	休憩	コース進捗により多少前後することがあります。		
10:45 ～ 12:00	EFAK Elementary First Aid Kit EFAK 使用法	最も基本的な救急品の使用法 1 使用目的LLE Life Limb Eyesight 2 IFAKの装備方法 EFAK構成方法(携行品のモジュール化) 3 内容品の収納方法 4 止血帯CATおよびSOFTT-Wの単体使用法 (1) 構造・機能 (2) 収納方法 (3) 救命器具としての使用法 (4) 出血制御用器具としての使用法 (5) 自分で救急処置を行なう方法(上腕部・大腿部) (6) 他人に1人で救急処置を提供する方法(上腕部・大腿部) (7) 他人に2人で救急処置を提供する方法(上腕部・大腿部) 5 衣服裁断法 (1) 安全カッターによる方法 (2) 安全はさみによる方法 (3) はさみ、ナイフによる方法 6 圧迫止血用包帯 EB・TB・OLAESの単体使用法 (1) 構造・機能 (2) 収納方法 (3) 四肢外傷への使用法 銃創、四肢の離断 (4) 前額部外傷への使用法 (5) 下顎部外傷への使用法 (6) 頭部外傷への使用法 7 圧縮ガーゼの単体使用法 (1) 構造・機能 (2) 頭部外傷への使用法 (3) 四肢離断面への使用法  8 アイシールドの使用法 (1) 戦場や災害時での被覆方法 (2) 沈子(ちんし)としての使用法 9 止血帯と圧迫止血用包帯の併用使用法 (1) 圧迫止血用包帯で出血を制御できる場合 (2) 止血帯を用いなければ出血を制御できない場合 10 圧迫止血用包帯と圧縮ガーゼの併用使用法 (1) 肩部貫通銃創の出血制御法 (2) 腋下部貫通銃創の出血制御法 (3) 鼠径部貫通銃創の出血制御法	IFAK:Individual First Aid Kit 個人携行救急品 EFAK:Elementary First Aid Kit 必須救急品  圧迫包帯 EB:Emergency Bandage TB:Trauma Bandage OLAES:OLAES® Modular Bandage  LLE 救急処置・応急処置・応急治療 後送・根本的治療に一貫する方針 Life 生命を守れ Limb 手足を残せ Eyesight 視力を残せ  EFAKの運用 MEDICやTEMPがEFAKを 4～8個携行する理由  止血帯を適用できない部位の処置法  防弾ベスト着用時の処置法  防弾ベストを処置用器具として使用する方法	展示 実習
12:00 ～ 13:00	昼食休憩	各人毎	EFAK使用法について長引いた場合、 昼食休憩時に時間調整を行います。	
13:00 ～ 13:30	銃砲の安全な取り扱い	銃砲の機能と安全な取り扱い 1 銃砲の区分 2 拳銃の構造・機能 3 拳銃の安全化 4 小銃の構造・機能 5 小銃の安全化	各種弾薬とその破壊力について 銃砲の緊急の無力化 銃砲の完全安全化	展示 実習
13:30 ～ 14:00	銃砲の安全な携行法・射撃法	1 拳銃の携行法 2 拳銃の射撃法 3 拳銃の故障排除 4 小銃の携行法 5 小銃の射撃法 6 小銃の故障排除	拳銃の携行目的と運用 拳銃の射撃方法 拳銃の携行目的と運用 拳銃の射撃方法	展示 実習
14:00 ～ 14:15	休憩	コース進捗により多少前後することがあります。		
14:15 ～ 15:00	対テロ行動と戦術的医療支援 四肢銃創総合実習	1 負傷者発生時の初期対応 2 TMPsがすべきこと 3 MEDICがすべきこと 4 機能分化と再編成、任務継続方法と各人の役割 5 絶対的危険地域での救出・救助 6 相対的危険地域での救急処置 7 救急処置後の輸送準備	屋内の安全化の体験 医療支援の提供場所の選択方法 医療支援の提供方法 四肢外傷を例とした、 Care Under Fire 絶対的危険地域での救護 Tactical Field Care 相対的危険地域での救護 についての区分の理解	展示 実習

## Elementaryコースプログラム

時間	区分	内容	教授方法	担当
15:00 ～ 15:30	野戦と第一線救護 IED対応行動 四肢爆傷総合実習	1 IED爆発時の初期対応 2 MEDICがするべきこと 3 遠隔医療評価 4 状況判断 5 複数四肢離断負傷者の救出・救助 6 救急処置後の輸送準備 7 担架搬送法	チェック5-25 WALK Warrior Aid and Litter Kitの使用法 担架搬送時の銃口の向き 担架搬送時の動揺の体験	展示 実習
15:30 ～ 15:45	休憩	コース進捗により多少前後することがあります。		
15:45 ～ 16:15	体幹部外傷	体幹部外傷の処置 1 胸部外傷で防弾ベストが銃弾の貫通を阻止した場合 2 胸部外傷で銃弾が身体を貫通した場合 3 ナイフにより腹部を切られた場合	胸部外傷の評価法 体幹部穿透性外傷の評価法(重点観察と四肢麻痺の確認) 防弾ベストの処置器材としての利用法 開放性気胸に用いる包帯材料と構造・機能 安楽体位(Bullet Drop Position)	展示 実習
16:15 ～ 16:30	休憩	コース進捗により多少前後することがあります。		
16:30 ～ 17:30	実技試験・筆記試験			
17:30 ～ 18:00	教育内容のまとめ 質疑応答 TacMedコースについて 関連コース案内について	コース修了証発行 コース内容習得認定について エレメンタリーコースインストラクターについて		

## 用語の解説

平時の救急医療における「ABCDEFアプローチ」	重要影響対処事態における「Call-A-CAB-N-Go-Hotアプローチ」	戦場におけるSAFE-MARCHE(セイフマルシェ)アプローチ
<p>A Airway「気道」</p> <p>B Breathing「呼吸」</p> <p>C Circulation 「循環状態の評価と出血の制御」</p> <p>D Dysfunction Central Nervous System 「中枢神経障害の評価」</p> <p>E Expose &amp; Environment 「脱衣と体温管理」</p> <p>F Family「家族や関係者への対応」</p> <p>の順序で漏れなく生命に迫る危機を評価、処置を施していく</p>	<p>Call「負傷者発生の注意喚起・周知・報告」</p> <p>A Away from danger 「危険の排除」</p> <p>C Circulation 「循環状態の評価と出血の制御」</p> <p>A Airway「気道」</p> <p>B Breathing「呼吸」</p> <p>N Nervous system「神経」</p> <p>Go「適所への移動、移送」</p> <p>Hot「保温」</p>	<p>まず行うべき「SAFE」</p> <p>S (Stop the Burning Process) 「脅威の無力化」</p> <p>A (Assess the Scene) 「状況評価」</p> <p>F (Free of Danger for You) 「自分に迫る危機の排除」</p> <p>E (Evaluate for the ABC) 「生理的評価の開始」</p> <p>ここでのABCは次の3つ</p> <p>A Airway「気道」</p> <p>B Bleeding「出血」</p> <p>C Cognition 「負傷者自らが認識・判断できる水準の認識能力」 (自分で行動できるか)</p> <p>「SAFE」を達成したならば「MARCHE」へ移行</p> <p>M (Massive Bleeding Control) 「大量出血の制御」</p> <p>A (Airway) 「気道の再評価と確保」</p> <p>R (Respiration) 「呼吸の管理」</p> <p>C (Circulation) 「循環の管理」</p> <p>H (Head &amp; Hypothermia) 「頭部外傷と神経障害の評価、低体温の予防」</p> <p>e (Evacuation &amp; Everything) 「搬送とその他できること全て」</p> <p>「e」が小文字となっているのはよく用いられる表現で、Everything「その他できること全て」はSAFE-MARCHEの一字ずつにかかるものであるから、それぞれにおいて「他にできることはないか考えなさい」という意味</p>

## 現場における医療の提供者と考え方

<p>救急隊員・救急救命士 ゴールデンアワー ゴールデンピリオド</p>	<p>TMPs: tactical medicine providers Righting Speed is Excellent Medicine 「電光石火の早業こそが最高の治療」</p> <p>Fix it「それぞれの状況で最適の決断と処置を実行する」</p>	<p>MEDIC 4R (The Right care to the Right casualty at the Right location and Right time) 「適切な治療を必要とする負傷者に適切な 場所で適切な時間で提供すること」 Dynamic Process 動的に変化する状況への判断と対応</p>
--	--	---